



第17回高分子分析討論会報告【2012】

天候にも恵まれた2012年10月25、26日の2日間、高分子分析研究懇談会主催の高分子分析討論会が名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）で開催された。本会場における当討論会の開催は初めてであったが、非常に充実した設備であった。本年は、発表件数は82件、参加者数は312名、産官学からの参加するほぼ例年並みの規模となった。また、協賛企業数は27社を数え、両日にわたりポスター会場内にて各種装置・データ処理ソフトなどの説明とデモが行われた。

初日午前中は、出口義国（カネカテクノロジー）実行委員長の挨拶による開会の後、第1回の研究発表が行われた。本会の発表形式は、最初に口頭でそれぞれ3分以内のプレビュー講演を行った後、1時間半のポスター発表を行うものである。ポスター発表では、至る所で活発な討論が交わされ、会場には熱気が溢れていた。また、高分子分析における研究対象の広さから、発表内容は、高分子分析のみならず、学問的にも技術的にも幅広く、多岐に渡っていた。

午後は、神戸大学大学院西野孝教授より「高分子表面の機能化とキャラクタリゼーション」の演題で特別講演が行われた。近年推進されているエキゾチック表面・界面の研究成果とともに、放射光を含めたX線を利用した表面・界面の解析事例と問題点について紹介された。続いて、第2回の研究発表が行われた。

また、同夕には名古屋の夜景が一望できる最上階ホールにて懇親会が開催され、日本分析化学会中村洋会長をはじめ、多くの方々にご参加いただいた。料理や酒を囲みながら和やかな雰囲気の中で盛況のうちに初日の日程を終えた。

二日目午前には第3回、午後より第4回の研究発表が行われ、その後、中部大学石田康行准教授の総会司会のもと、「高分子分析討論会における分析技術の動向」の演題で、松田裕生氏（帝人）よりNMR、佐藤浩昭氏（産総研）より質量分析、鈴木俊夫氏（旭硝子）より分光分析についてレビュー講演が行われた。17回にわたる討論会での発表件数の推移や、各分野にごとにおける注目される技術などが紹介された。最後に、渡辺健市（豊田合成）高分子分析研究懇談会副運営委員長より閉会の挨拶が行われた。

ポスター賞等は、歴代運営委員長・実行委員長の選考による「審査員賞」が4件、ポスター発表者の投票による「ポスター賞」が4件あり、懇親会および閉会時に、出口義国実行委員長より授与された。受賞した演題と演者を以下に記した。

審査員賞

「共鳴ラマン散乱による高分子材料中の紫外線吸収剤の選択検出」 加藤雄一（豊田中央研究所）

「抗体磁性ビーズを併用したMALDI-MSおよび反応熱分解GC/MSによる細菌構成成分の精密解析」 鶴飼浩志（中部大学）

「MALDIイメージングを用いた高分子材料の解析」 佐藤幸司（旭化成）

「ナノ微粒子質量分析（Nano-PALDIMS）の低～高分子の網羅的検出」 平修（北陸先端大院）

ポスター賞

「MALDI-MSおよび熱分解分析法によるポリエチルシリケート系シランカップリング剤架橋反応の解析」 山内一輝（名古屋工業大学）

「マイクロGPC分取を用いた微量試料の簡易定性分析」 川合一輝（東レリサーチセンター）

「MALDI-TOF/MSによる高分子材料中の添加剤の直接分析」 山端祐介（旭化成）

「Pt蒸着によるSALDI/MSイメージングを用いた有機材料の分布解析」 小沢智行（日産化学工業）

最後になりましたが、本会を開催するにあたり、企業協賛いただいた旭テクネイオン(株)、伊勢久(株)、インタクト(株)、インフォコム(株)、エーエムアール(株)、(株)エービー・サイエックス、(株)エス・ティ・ジャパン、オミクロン・ナノテクノロジー・ジャパン、オリンパス(株)、(株)カネカテクノリサーチ、(株)システムズエンジニアリング、島津製作所、昭光通商(株)、(株)センシュー科学、(株)デジタルデータマネジメント、東ソー(株)、(株)NEAT、(株)日東分析センター、日本電子(株)、日本電色工業(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、(有)ヒューズ、ブルカーAXS(株)、ブルカーダルトニクス(株)、フロンティア・ラボ(株)、(株)リガク各社にお礼申し上げます。

〔資生堂 中谷善昌〕



All Rights Reserved, Copyright (c) 2003, THE JAPAN SOCIETY FOR ANALYTICAL CHEMISTRY